

# 説明的文章の授業づくり(その2)

## 「単元構想シート」の作成

次は、(その1)で確認した「9の視点」を生かして、「単元構想シート」を作成しましょう。

「単元構想シート」とは、児童生徒の実態や身に付けさせたい資質・能力から言語活動を設定し、指導計画を作成するためのシートです。シートの作成をとおして、授業改善を図り、児童生徒の読解力を高めましょう。



### 「単元構想シート」の作成手順

- ①本単元で身に付けさせたい資質・能力を設定する。
  - ・「資質・能力」とは「学習指導要領の指導事項」そのものです。
- ②児童生徒の実態を捉える。
- ③教材文を決定する。
  - ・「教材文を教える」のではなく「教材文で教える」意識を持つことが大切です。
- ④単元に合った言語活動を設定する。
  - ・国語科において、話す・聞く、書く、読む活動すべてが言語活動です。「何を」「どのように」話したり、書いたり、読んだりさせるのか、教師が明確な意図を持って設定することが重要です。
  - ・身に付けさせたい資質・能力を育成するのに適した言語活動になっているかを吟味します。
- ⑤指導計画を作成する。
  - 〈第1次〉
    - ・この単元で身に付けさせたい資質・能力を伝え、学習計画を立てます。
  - 〈第2次〉
    - ・「9の視点」を基にして、第2次の指導計画を作成します。「構造の理解」「内容の理解」「考えの形成」がバランス良く、落ちなく学習できるように計画します。
  - 〈第3次〉
    - ・筆者の主張や論の展開の工夫のすばらしさについて自分の考えをもたせるとともに、その良さを活用できるような言語活動を設定しましょう。

単元構想シート		
児童の実態	本単元で身に付けさせたい資質・能力 ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事象との関係などについて、叙述を基に捉えること。 ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。 オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	
教材文	「思いやりのデザイン」「アップとルーズで伝える」(小学4年)	
単元に合った言語活動	「アップ」と「ルーズ」の対比を用いて作文を書き、身の回りのことを友達に伝える。	
指導計画 (総時数 9時間)		
次	時	学習活動(○数字は時数)
1	3	1 「思いやりのデザイン」を読み、段落の役割を捉える。② 【習得】
		2 「アップとルーズで伝える」を読み、学習計画を立てる。① 【活用】
2	4	3 説明文の構造を捉える。 (1) 「はじめ」「中」「おわり」に分ける。① ・分けた根拠を話し合う。 ・「問い」「結論」を要約する。 (2) 「中」に分ける。① ・分けた根拠を話し合う。
		4 説明文の内容を捉える。 (1) 「中」の「事例」を要約する。① (2) 事例の書き方の特徴を捉える。① ・対比(しかし・でも) ・まとめ(このように)
3	2	5 「アップ」と「ルーズ」の対比を用いて、身の回りのことを友達に伝える文章を書く。 ・文章を書く。① ・発表する。①
事例の要約例		
事例1 テレビ		サッカーの試合の様子を見てみよう。アップでとると、細かい部分の様子がよく分かる。ルーズでとると、広いはんいの様子がよく分かる。このように、アップとルーズには、それぞれ伝えられることと伝えられないことがある。テレビでは、目的のおうじてアップとルーズを切りかえながら放送している。
事例2 新聞		写真にも、アップでとったものとルーズでとったものがある。新聞を作るときは、目的に一番合う写真を選んで使うようにしている。

単元構想シートの例

「9の視点」を活用した教材研究を基に「単元構想シート」を作成することで、児童生徒に身に付けたい資質・能力や単元の指導事項が明確になります。「構造の理解」「内容の理解」「考えの形成」をバランス良く、落ちなく学習できるように計画しましょう。

